

Chœur Rechant



クール・ルシヤン 第3回 演奏会

2001年6月24日(日)

千葉ばるるホール

酔っての所業故ご勘弁

大場 点

1998年12月、県内某所にて酔っぱらった男達が冗談半分にした合唱団設立構想が、翌年4月に結実しクール・ルシヤンの誕生となった。当初はとりあえず1年練習して演奏会を開きそれで解散というのがかっよくっていいんじゃないというもくろみだったのが、気が付けば演奏会も今回で3回目つまり丸3年間さり気なく続いている現状。しかしながら年1回の演奏会開催も月に2回の練習ではなかなかきつい、選曲にいろいろと頭を悩ませていたところ、昨年10月Voicesわの第1回演奏会に招かれ、会終了後の打ち上げで懐かしい面々と酒を酌み交わすうち、一緒にやりませんかということになり今回賛助出演していただく運びとなった。さて、今回のプログラム、作曲家の名前を一見した限りではなくにやらお堅いとても真面目な印象をお受けになるかも知れないが、よく見ると、「男」の四季?作曲がヴィヴァルディなのに初演?早口ことばッハって何?等々、なにやらとても不真面目な臭いがぶんぶん漂っているではないか。まじめな前半の気品高い(かもしれない)演奏をお味わいただいたのち、小生の稚拙な編曲ながらもたっぷりのアイディアと工夫を凝らした(半ば酔った勢いで作ったとうわさされる)後半へと、本日は合唱の面白さに酔いしれていただきたいと思う次第である。

ごあいさつ

Voicesわ 一同

合唱団クール・ルシヤンのファンの皆様、はじめまして。<Voicesわ>と申します。私たちは「メンバーの一人一人が自立した演奏家として、良い音楽とは何かを、誠実に探求する集団でありつづけたい」という基本理念の下、1999年3月に結成した声楽アンサンブルです。メンバーは東京近郊の社会人が中心で、常任指揮者をおかず、メンバーの同意により音楽の方針等を決定しています。結成以来、ルネサンス・バロックから現代までの作品に取り組み、合唱指揮者講習会へのモデル合唱団としての参加や、東京ヴォーカルアンサンブルコンテストへの出場、横浜みなとみらい小ホールでの演奏等を経て昨年10月には第1回演奏会を開催することができました。本日は、大好きなバッハの作品でルシヤンの皆さんと同じステージに立てることを心より楽しみにしております。まだまだ未熟な私たちですが、少しでも皆様楽しんでいただける演奏ができましたら幸いです。

プログラム

- I オケゲム Johannes Ockeghem (c.1425-1497)
- | | |
|----------------------|---------------|
| Missa Mi-Mi ~Gloria | ミサ「ミ・ミ」~グロリア |
| Motet "Salve Regina" | モテット「めでたし元后よ」 |
- II ストラヴィンスキー Igor Stravinsky (1882-1971)
- | | |
|---------------------|---------|
| Pater Noster (1926) | 我らの父よ |
| Credo (1932) | クレド |
| Ave Maria (1934) | アヴェ・マリア |

III メンデルスゾーン Felix Mendelssohn (1809-1847)

Sichs Lieder im Freien zu singen (Op.59)	野外で歌うための6つの歌
Im Grünen	緑の野で
Frühzeitiger Frühling	早春
Abschied vom Walde	森への別れ
Die Nachtigall	ナイチンゲール
Ruhetal	安息の谷
Jagdlied	狩の歌

<Voices わ 賛助演奏>

Intermission

IV ヴィヴァルディ Antonio Vivaldi (1678-1741)

混声合唱組曲「男の四季」

春-潮来笠	佐伯孝夫 作詩	吉田 正 作曲
夏-昭和ブルース	山上路夫 作詩	佐藤 勝 作曲
秋-傷だらけの人生	藤田まさと 作詩	吉田 正 作曲
そして冬-仁義	星野哲郎 作詩	中村千里 作曲

編曲 大場 点

V J.S.バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)

スーパー・コーラル・ワーク	
早口ことばッハ64	編曲 大場 点

<Voices わ & クール・ルシヤン 合同演奏>

指揮 大場 点

目録解説

I ミサ「ミ・ミ」〜グロリア モテット「めでたし元后よ」

オケゲム 作曲

デュファイに代表されるブルゴーニュ楽派の作曲家たちが開拓した音楽書法や記譜法を基礎にして、ルネッサンス音楽は大きく開花しヨーロッパ音楽の主導的地位を築いていった。15世紀中頃から16世紀末頃までの約150年間、フランドル地方（現在の北フランスからベルギー南部の地域）出身の作曲家達がその中核を担い、一般に彼らを総称してフランドル楽派と呼んでいる。オケゲムは、フランドル楽派初期の最も代表的な作曲家である。オケゲム以前のブルゴーニュ楽派の音楽がフォブルド的楽曲（装飾化された旋律とそれを支える下声部によるもの）であったのに対して、彼は各声部に均衡を与えた対位法的作曲書法を極めていわずにポリフォニー音楽の基礎確立に大きく貢献した。その作品は各声部が一見とりとめもなく旋律線を繋げていきつつも、クライマックスでは不思議な感動の高みへと聴く者を導いてくれる。彼の作品で現存しているものは、ミサ曲11、レクイエム1、モテット10、世俗シャンソン20程度とされている。本日は、ミサ曲とモテットのうちからそれぞれ1曲ずつを選んで演奏する。

II 我らが父よ クレド アヴェ・マリア

ストラヴィンスキー 作曲

「春の祭典」で革新的なリズム技法の構築と刺激的色彩を放つオーケストレーションを実現したストラヴィンスキーは、この曲をもって革命的な現代音楽の巨星として目されることとなった。しかし、祭典以後かれの作風は大きく変化する。1923年頃よりいわゆる新古典主義に転じたのである。それは、後期ロマン主義の主情性・標題性への反逆として生まれ、「パッサに帰れ」というスローガンに表されるようにバロックやそれ以前の対位法的手法を尊重したものであった。この時期の頂点となる作品が、有名な「詩篇交響曲」(1930)である。本日演奏される3曲はその前後に書かれた合唱のための小品であり、3曲とも全ての声部が同一のリズムで動くホモフォニックな手法で書かれている。「クレド」は、一つの全音符に複数の歌詞を割り当てたレチタティーヴォ風の手法が用いられている。「我らが父よ」と「アヴェ・マリア」は特徴あるリズムパターンが用いられているものの、全体の雰囲気はパッサのコーラルを連想させるような趣である。また、3曲とも強弱を示す記号が全く付されていないのも特徴の一つと言える。

目録解説

III 野外で歌うための6つの歌

メンデルスゾーン 作曲

メンデルスゾーン(1809-1847)の音楽は、明快である。この明快さは、音楽史の上で見れば彼の年代の属すロマン派より一時代前、古典派的という評価がされている。もちろん、様式的な古典派性は明らかであるが、そのような様式を選ばせたものは、彼の本質的な部分にある啓蒙思想だったのではないか。啓蒙という日本語は、上からものを教えてやるといった語感を持つが、ドイツ語では「クリアにする」という語であり、合理性を尊ぶ市民階級の思潮、フランス革命の自由・平等・博愛の根幹であった。現代日本で叫ばれているアカウンタビリティ、わかりやすさ、もヨーロッパのこういった精神の流れの下にある。実は、メンデルスゾーンの祖父は、ゲットー出身のユダヤ人でありながら、有名な啓蒙思想家であった。メンデルスゾーンの音楽は、その思想の音楽としての具現化だったのではないか。《野外で歌う6つの歌》は、当時盛んになってきた市民の合唱団が、遠足に行き歌う歌として作られたといわれている(ドイツ人は遠足好きである)。ゲーテやアイヒェンドルフの詩も、戸外と自然にあこがれ、賛美する詩が選ばれている。

IV 混声合唱組曲「男の四季」

ヴィヴァルディ 他 作曲/大場 点 編曲

パロディはいわばマニアな笑いを追求するもので、元を知らない人にとっては笑いの対象とならないという本質的な欠点を内在している。だからこそ、元となる素材の選択には慎重さを欠かせない。そういう意味では、ヴィヴァルディの四季はかなりポピュラーな位置付けがなされているといえ、その上で今回の暴挙に踏み切ったわけであるが、「四季」以外にもいろいろと小細工が加えられているのでお楽しみに。「潮来笠」は橋幸夫の大ヒット曲、「昭和ブルース」は故天知茂のしぶい歌声が懐かしい、「傷だらけの人生」は故鶴田浩二が耳に手をあて歌っていた姿が目にかぶ、「仁義」は北島三郎の熱唱が胸にしみたぞ。

V 早口ことばッハ64

J.S.バッハ 作曲/大場 点 編曲

昨年、バッハ没後250年を記念して、バッハの器楽曲を14曲つなげ、さらに歌詞には早口ことばをのせたこの珍曲を演奏、不評だったか好評だったかは不明ながら、要するに1回やった曲を再度取り上げることで楽をしようという、せこい考えに基づいてのこの最終合同ステージである。合同演奏ということで、昨年とはまた違った響きでの演奏をお楽しみいただきたい。

出演メンバー

クール・ルシャン

ソプラノ：相葉 昌枝 井柝由美子 佐藤 純子 鷹野 恵
豊崎 光子 堀野 直美 渡辺亜紀子
アルト：稲葉由美子 大槌 彩子 草場 澄江 柴 信子
田中 和子 堀内みずき
テノール：井柝 嘉一 大槻 幸雄 木内 博和 草場 康弘
バス：天沼 透 大槌 亨 佐藤 正史 湯浅 康弘

指揮：大場 点

ヴォイストレーナー：桜井和子



Voices わ

ソプラノ：印南美洋子 田中 美紀 富矢 千絵
アルト：西井みどり 西原 純子 三宅 千代 宮澤 友子
テノール：伊藤 徳和 佐藤 明彦 宮澤 彰
バス：印南 幸夫 田中 俊哉 二宮 正紀



クール・ルシャンとVoices わでは団員を募集中です。

◇お問い合わせ先

クール・ルシャン / Tel. 042-252-3333 (広瀬)

Website <http://members.tripod.co.jp/obatomor/>

Voices わ / Tel. 042-252-3333 (宮澤)

Website <http://homepage.mac.com/voiceswa/>